モーリタニア月例報告
（２０２３年８月）

２０２３月９月
在モーリタニア日本国大使館

主な出来事
【内政】
８月１４日　モーリタニアにおける麻薬・向精神薬の摘発

【外政】
８月１日　モーリタニア・中露関係及び今後の外交展望
８月２日　ニジェールのクーデターがモーリタニア及びサヘル地域に及ぼす影響
８月５日　ニジェールで発生したクーデターに対するモーリタニアの現在までの立場と今後の展望
８月１２日　ニジェールのクーデターが欧州諸国の西アフリカからの天然ガスの確保に及ぼす影響と代替案としてのモーリタニアの天然ガスの可能性
８月１７日　ニジェールにおけるクーデターに対するモーリタニアの姿勢
８月３０日　西アフリカ移民問題

【文化】
８月８日　外交アカデミーに図書寄贈
８月１７日　内田大使のがん患者慰問

【内政】

●モーリタニアにおける麻薬・向精神薬の摘発（８月１４日付　SAHARA MEDIA）

１．麻薬密売と向精神薬の撲滅を担当するサンバ（El Hacen Ould Samba）麻薬取締局局長は、２０２３年の上半期中に４つの麻薬密売組織を解体し、１５６人の容疑者（うち１３３人がモーリタニア人）を起訴し、１２kgのハシシ（Haschich）と７kgの大麻樹脂（resine de cannabis）を押収したと述べた。同局長によれば、２０２２年中には８つの密売グループを解体させたが、うち４つはハシシ、３つが大麻樹脂、１つが３-MMC（注：デザイナー・ドラッグの一つ）を取り扱っていた。

２．（１）また、同局長によれば、危険な薬物の消費傾向に変化があり、例えばハシシ利用者がラタンジュ（注：詳細不明だが安価な大麻の一種）を

消費するようになった。また、Valium（抗不安薬ジアゼパム）やRivotril（筋弛緩薬リボトリール）の利用者は、Ecstasy（MDMA・幻覚剤）に加えてジアゼパムやpregabaline biogaran 300mgを利用するようになった。更に、地元で密造されるアルコール飲料（通称「Soumsoum」）の消費者も、工業用アルコールに転向している。

（２）こうした変化の理由について、同局長は、国境近辺で麻薬密売取引を阻止する努力のおかげであり、密輸グループが大きな損害を被っているため、と述べた。

【外政】

●モーリタニア・中露関係及び今後の外交展望英国系メディア（８月１日付「インディペンデント」（アラビア語版））

１．ガズワニ大統領は、７月２８日～３０日にかけて中国を訪問した。大統領の中国訪問はビラール首相のロシア・アフリカサミットへの出席後に実施されたが、モーリタニアが中露に関心を振り向けているのではとの言説が国内で改めて広まっている。

２．国内の政治ウォッチャー達は、北大西洋条約機構（ＮＡＴＯ）が西アフリカ地域の唯一のパートナーとみなすモーリタニアが、サヘル地域における政治的・安全保障的な浸透に関心を払う中露に接近するかもしれないと見ている。地政学的情勢の劇的変化の結果、サヘル地域の国々の従来の外交及び協力の方針は吹き飛んだ。これまでフランスを筆頭とした西側諸国が地域における唯一のプレイヤーであったが、２０２０年以降状況は大きく変化した。

３．（１）アメリカに拠点を置く調査機関AidDataの最近の分析レポートは、「中国人民解放軍は、自国の貿易ルートの保護や、軍事プレゼンスの拡大及び西側諸国からの制裁に対する抵抗能力を高める等の目的の一環で、国外に複数の海軍基地の設置を計画している。この点、首都ヌアクショットは、大西洋に面したモーリタニアの沿岸部に海軍基地を設置する上で魅力的な選択肢である。」と言及している。当該レポートの作成者達は、中国の対モーリタニア投資の規模や、ヨーロッパとの地理的な近さによって、モーリタニアが中国政府にとっての優先事項となっていると強調している。

（２）現在のところ、中国が自国領土外に海軍基地を設けているのは、ジブチのみである。他方、ウォッチャー達は、中国はアメリカとの競争の激化を理由に昨今海洋分野でのプレゼンス強化を志向していると見ている。

４．（１）モーリタニアの独立以来、中国はモーリタニアにとって開発上のパートナーで、モーリタニア国内における開発事業の大半は中国により実施されてきた。また、中国はモーリタニアにとっての貿易上のパートナーでもあ

り、２０２１年の両国間の貿易総額は２７億ドル以上であった。
（２）モーリタニア人の政治専門家は、「モーリタニア・中国二国間関係はモーリタニア独立直後の時代にまで遡ることが可能な歴史的な関係で、漁業・保健・教育等の重要セクターに及んでいる。他方、軍事面での二国間協力は、参謀総長を務めていたガズワニ大統領が中国からの軍事製品の購入に係る取引に署名した２０１６年以前はなかった。モーリタニアがＮＡＴＯと良好な関係を構築している点や、自国領土における外国軍基地設置を拒否している点から、中国軍の基地設置にまで話が及ぶとは思わない。他方、ガズワニ大統領の訪中の成果や、習近平国家主席のモーリタニア訪問の約束を加味すると、基地設置でない形での軍事協力の促進はあり得る。」と述べている。

５．（１）モーリタニアは、中露との歴史的に良好な関係にマイナスの影響を与えない形で、ＮＡＴＯとの協力を拡大するという外交方針に依拠し、外交関係の多様化に成功した。ＮＡＴＯはモーリタニアのサヘル地域における役割を賞賛している。実際、２０２２年６月のＮＡＴＯ首脳会合の場でコロミナ（Javier Colomina）ＮＡＴＯ事務次長は、「モーリタニアはＮＡＴＯにとってのサヘル地域の唯一のパートナーである。モーリタニア・ＮＡＴＯ間のパートナーシップにおけるガズワニ大統領の役割は非常に大きい。特に、２０２１年１月のガズワニ大統領のＮＡＴＯ本部訪問以降、ロードマップ策定に向けた取組がスタートした。」と述べていた。
（２）ＮＡＴＯは、サヘル地域においてテロ・麻薬密輸・移民の問題に対応する上でモーリタニアとのパートナーシップを頼りにしている。サヘル諸国の１つのニジェールではクーデターが発生し、地域情勢はますます複雑・不安定化している。
（３）ＮＡＴＯとの関係について、モーリタニア人ジャーナリストは「モーリタニアは、中露・欧米を含めたあらゆる国々と協力関係を強固なものとすべく努めているところ、中国やロシアとの協力関係がＮＡＴＯとの関係に影響を及ぼすとは思わない。」と述べている。

６．（１）不安定なサヘル情勢の結果、Ｇ５サヘル加盟国は中露・欧米との関係で歩調を合わせる傾向が顕著となっている。マリ・ブルキナファソはロシアに傾倒し、クーデター後のニジェールの新たな指導者達もロシア側になびいている。欧米側にいるのはチャドのみで、フランスにとっての戦略的パートナー国の位置付けである。
（２）かかる状況下、モーリタニアのみが両陣営との関係でバランスをとる国である。ＮＡＴＯとの戦略的関係は維持しつつ、中国との開発面での関係を維持している。前述のモーリタニア人ジャーナリストは、「モーリタニア

の外交は、サヘル地域が特定の陣営の拠点ではないというビジョンに依拠している。特定の陣営への傾倒が、サヘル地域の治安情勢にマイナスに作用し、クーデター頻発の遠因となった。モーリタニアは不安定な地域に位置し、様々な危機に直面している。モーリタニアは、中露・欧米双方との相互利益の追求と、サヘル地域で昨今見受けられる中露・欧米との関係面での歩調あわせと距離を置くことを基本方針とした現実的な政策を行っている。」と述べている

●ニジェールのクーデターがモーリタニア及びサヘル地域に及ぼす影響（８月２日付　英国系メディア「インディペンデント」（アラビア語版））

１．ニジェールで発生したクーデターの結果、西アフリカ情勢は更に混迷化し、地域の政治・治安情勢に暗い影を落としている。モーリタニアは、治安・開発面の問題の中心にあって劇的変化に事欠くことがなかったサヘル地域で戦略的な特異性を有し、選挙で選出された統治者により統治された唯一の国である。この点、クーデター前のニジェールは、クーデターが頻発するサヘル地域における様々な問題に対応するモーリタニアの方針と合致したビジョンを持つ国であった。他方、これらサヘル諸国におけるクーデターの実行者達の一貫した指針は、欧米諸国への明確な敵視と、サヘル地域におけるプレゼンスの確保を虎視眈々と狙う東側諸国への門戸開放である。

２．（１）ニジェールで発生したクーデターは、モーリタニアの外交政策の根幹に対して課題を投げかけている。モーリタニアはニジェールのことを特別な国と認識していた。ニジェールはテロ問題や、麻薬密輸、移民問題等におけるモーリタニアのアプローチに歩調を合わせていた。

（２）政治専門家は「ニジェールのクーデターはモーリタニアに影響をもたらすと思う。少なくとも、サヘル地域におけるテログループを筆頭とした国内外の脅威に対応するＧ５サヘルの取組に影響を及ぼすだろう。Ｇ５サヘル加盟国の大半が、過激派勢力の浸透、国内の脆弱性、政治的不安定性等の似通った特徴を持っている。憲法プロセスに則らない政府の交代は、他国にも予期せぬ影響を及ぼすだろう。」と述べている。

（３）他方、別の専門家は、「モーリタニア・ニジェールの関係性は、モーリタニアの隣国であるモロッコ・アルジェリア・セネガルとの関係と比較すると、クーデターの関係が直接モーリタニアに影響を及ぼす程密接なものではない。他方、モーリタニアにとってニジェールはサヘル地域における政治・情報交換面でのパートナーでもあったため、テロとの戦いの面で影響を受けるだろう。ニジェールのクーデターは、Ｇ５サヘルにおける強力な同盟国の喪失を意味する。マリ・ブルキナファソでのフランスのプレゼンスの終

了後、サヘル地域ではフランスを筆頭とする伝統的勢力に対する軍部の反乱が発生している。」と述べている。

３．（１）２０２０年のマリのクーデターは、ブルキナファソ等の他国で後に発生する一連のクーデターの敷石となり、サヘル地域における伝統的プレーヤーの関与の周縁化というこれまで欧米諸国が見たことのないサヘル情勢の様相が表面化し始めた。このような困難な状況の結果、モーリタニアは自分達の立場を明確にした。実際、モーリタニア政府は、ニジェールのクーデター勢力に対して、「アフリカ連合（ＡＵ）設立法に反する形の体制変換をサヘル地域はこれ以上許容できない。」とするメッセージを発出した。

（２）それでも、モーリタニア側はニジェールのクーデター勢力と接触を図らざるを得ないだろう。旧宗主国フランスとの関係性が良好なモーリタニアと異なり、ニジェールの新たな統治者達は、バズム大統領の同盟相手であったフランスを好んでいない。

（３）モーリタニア人専門家は、「モーリタニアは旧宗主国のフランスと良好な関係を維持している国で、テロとの戦いにおけるアプローチは成功し、サヘル地域の問題から遠ざかるよう努めている。他方、ニジェールのクーデターの指導者達は、マリやブルキナファソのクーデターの実行者達と同様の反応をするだろう。現在Ｇ５サヘルは解体の危機に瀕している。クーデターの連続により、フランスに象徴される伝統勢力に敵対する政治体制が中心を占めるようになっており、Ｇ５サヘル創設の中心的役割を担ったモーリタニアにとっては憂慮すべき事態である。」と述べている。

４．（１）ニジェールのクーデターはＧ５サヘルの今後に疑問を投げかけている。Ｇ５サヘルの創設者達は、これ以上問題が悪化しないことを望んでいたものの、Ｇ５サヘルは組織存続の問題に苦悩している。

（２）上述のモーリタニア人専門家は、「マリのＧ５サヘル加盟資格停止がサヘル諸国のテロとの戦いの分野にマイナスの影響を及ぼしたように、ニジェールのクーデターはサヘル諸国にマイナスの影響をもたらすだろう。サヘル諸国がＧ５サヘルの置かれた状況を受け入れ、是正し、Ｇ５サヘルと協力するのを期待したいが、先行きは宙に浮いたままである。」

（３）他方、別の専門家は、「欧米であれロシアであれ、サヘル地域では特定の勢力への傾倒が顕著だが、サヘル諸国に必要なのは自分達の力で外政・内政の問題に立ち向かうための更なる団結である。特定の陣営に接近すればする程、更なる内政・外政干渉が待っていると認識すべき。サヘル地域は、大国による干渉と国家建設を目論む過激派勢力という２つの脅威にさらされている。ニジェールのクーデターは、更なる外国の介入と過激派勢力の活発化に繋がるであろう。」と述べている。

●ニジェールで発生したクーデターに対するモーリタニアの現在までの立場と今後の展望（８月５日付　ＲＦＩ）

１．西アフリカ諸国経済共同体（ＥＣＯＷＡＳ）によるニジェールへの軍事介入の全容が明確になった。ＥＣＯＷＡＳ側の最後通告の期限は８月６日（日）までで、既に加盟国数カ国が参加を表明している。

２．Ｇ５サヘルを率いるモーリタニアは、ニジェールのチアニ将軍によるクーデターを強く非難し、憲法プロセスに則らない形の政権交代に反対しているものの、自国が介入する意向を未だ表明していない。

３．ＥＣＯＷＡＳの加盟国は、ニジェールに対する経済制裁と軍事介入のオプションへの支援を訴えている。他方、ニジェールのクーデター首謀者達は、外国による干渉を拒否し、サヘル諸国の連帯を求めている。

４．ニジェール情勢に関して、シュルーカ政府報道官は、「現時点でモーリタニアは、ＥＣＯＷＡＳの対ニジェール制裁プロセスへの参加要請を受けていない。他方、もしＥＣＯＷＡＳから要請があれば、国益と地域の安定・安全における我々の責任に基づき検討するだろう。」と述べている

５，　多くのモーリタニア国内のウォッチャー達は、モーリタニアがＥＣＯＷＡＳによるニジェールへの軍事介入に参加することはないと見ている。実際、モーリタニアは２０２２年１月にＥＣＯＷＡＳがマリ暫定政権に対して課した経済制裁には加わらず、マリ産綿花がヌアクショット港経由で輸出できるようになった。

●ニジェールのクーデターが欧州諸国の西アフリカからの天然ガスの確保に及ぼす影響と代替案としてのモーリタニアの天然ガスの可能性
（８月１２日付　「インディペンデント」（アラビア語版））

１．（１）欧州諸国はナイジェリアの天然ガスの自国への供給をニジェール・アルジェリア経由で確保しようと急いでいたが、ニジェールで発生したクーデターは欧州諸国の希望を打ち壊すこととなった。西アフリカ諸国経済共同体（ＥＣＯＷＡＳ）は、バズム大統領の救出及び大統領への復権に向けた軍事オプションを未だ発動してはいないものの、情勢は緊迫している。この点、厳しい冬に毎年晒される欧州諸国は、地域の緊張の震源地で短期間では状況が元に戻らない可能性があるニジェールに囲まれたナイジェリアからの天然ガスの替わりを追求し始めている。

（２）ニジェールのクーデターは、欧州諸国のエネルギー計画の今後の動向に暗い影を落としている。

（３）本件についてエネルギー専門家は、「西アフリカ地域におけるロシア

の影響力は同地域における欧州諸国の権益に直接の影響を与えるであろう。特に、エネルギー分野はその筆頭で、欧州諸国に圧力をかけるべくロシアが用いる最初の手段となるであろう。エネルギー分野で最も影響が及ぶのは、ナイジェリアの天然ガスをニジェール・アルジェリア経由で欧州へ運ぶガスパイプラインの計画（トランスサハラ・ガスパイプライン設置計画）である。ロシアとアルジェリアは密接な関係にあるものの、現在当該計画は初期段階にあり、計画の採算性調査（フィジビリティスタディ）の準備と必要な融資を確保する段階にある。他方、ニジェールのクーデターに対するロシアの関与・介入が確認された場合、事業実施の可能性は低くなってしまうだろう。」と述べている。

（４）欧州諸国は、ＥＣＯＷＡＳとニジェールのクーデター勢力の対話の行く末を懸念しながらフォローしている。ＥＣＯＷＡＳの部隊のニジェール領内への展開は、アフリカの液化天然ガスの欧州への供給の最後の望みを打ち壊すこととなるであろう。

２．（１）他方、「ニジェール情勢の緊迫化が２０２４年初頭から輸出開始予定のモーリタニア産の天然ガスにプラスに作用する可能性がある。」との経済ウォッチャー達の見解が最近多く見受けられる。

（２）モーリタニアのエネルギー専門家は、「モーリタニアの政治情勢は安定し、欧州にも近く、欧州連合（ＥＵ）と密接な協力関係を持っている。これらの要素は、欧州諸国の利益に叶うものである。モーリタニアは欧州の玄関口に位置しており、モーリタニアとスペイン領カナリア諸島は（飛行機で）約１時間もあれば到着する距離である。また、ガスの欧州への輸出にパイプラインも不要である。モーリタニアは、西アフリカ地域における天然ガスに対する欧州諸国のニーズという地政学的状況を利用できるはず。」と述べている。

（３）他方、アフリカ情勢の専門家は、「最近の情勢の変化はモーリタニアの天然ガスの欧州への輸出の機運にむしろマイナスに作用する可能性がある。ナイジェリアからモロッコ経由で大西洋を横断するパイプラインの設置計画がナイジェリア産のガスの欧州への輸出確保の上で第一オプションとなるのではなかろうか。」と述べている。

３．（１）西アフリカ情勢は、アフリカ諸国が独立を実現した１９６０年以降経験したことがない水準にまで悪化している。マリ・ブルキナファソ・ニジェールの政変は、旧宗主国フランスの牙城であった地域に大きな変化をもたらし、これら三カ国はアフリカ大陸への進出が著しいロシアに接近している。

（２）サヘル情勢の変化は、天然ガスパイプライン設置がサヘル地域における昨今の戦略情勢のロードマップである点を明らかにした。サヘル地域にお

ける中心国の喪失は、不法移民の増大・武器の流入・薬物の密輸を欧州にもたらすであろう。
（３）上述のエネルギー専門家は、「ニジェールのクーデターは西アフリカにおけるエネルギー事業の行く末を決める重要な試金石である。西アフリカへの進出を巡る争いにロシアが勝利した場合、欧米系企業は、ロシアの地域における更なる影響力拡大のリスクの観点から、西アフリカ地域における天然ガス及びグリーン水素事業を停止せざるを得ないだろう。」と述べている。

●ニジェールにおけるクーデターに対するモーリタニアの姿勢（８月１７日付仏系メディア「Le Monde」）

１．一つの道を捨てずに別の道を歩むには、一定の外交センスが求められる。モーリタニアは、ニジェールでのクーデター直後にチアニ将軍によるクーデターを非難した。７月２６日に発表した声明の中でモーリタニア政府は、「姉妹国における情勢の推移を大きな懸念をもって注視するとともに、アフリカ連合構成法と相容れない違憲な政権交代を絶対的に拒否する。」と述べている。

２．（１）このモーリタニアの姿勢は国際社会にとって驚きだった。モーリタニアは、これまでにマリ、ギニア、ブルキナファソで発生したクーデターに対して明確な見解を述べておらず、公然とクーデターを非難したのは今回が初めてのことだ。フランス国際関係研究所（ＩＦＲＩ）の専門家は、「モーリタニアは、常に非常に慎重な態度を維持している。最前列には決して現れず、外交ルートを好む国である。」と述べている。
（２）北アフリカ情勢のオブザーバーは、「モーリタニアは、サヘル地域でのクーデターの最多記録保持者であり、ガズワニ大統領自身も２０１９年に民主的に選出される以前の２００５年と２００８年のクーデターに参加している。このような理由から、モーリタニアは今回のニジェールのクーデターに対する原則的非難を表明した。」と述べている。

３．ニジェールでの憲法秩序の回復を求めるモーリタニア政府の報道発表は、サヘル地域におけるクーデターの伝播を恐れてのことなのだろうか。脱退したマリを除いたモーリタニア・ニジェール・チャド・ブルキナファソで構成されるＧ５サヘルにおいて、ガズワニ大統領が民主的に選出された唯一の大統領である。複数の情報筋によると、ニジェールでクーデターが発生した７月２６日以来、ガズワニ大統領周辺の警備が強化されている。

４．（１）上述のＩＦＲＩ専門家は、「ガズワニ大統領は、元諜報機関トップ・元参謀総長として国防の真髄に精通している。長年に渡り軍が政権の優先課

題である。最近でも軍人の給与が引き上げられ、将校には海外での訓練が提供されるようにもなった。」と述べている。
（２）モーリタニアは治安を確保したと自画自賛できる国でもある。ニジェール、マリ、ブルキナファソが定期的にジハード主義者によるテロ攻撃を受けているのに対し、モーリタニアは、２０１１年以来自国領土内でのテロ攻撃を経験していない。

５．（１）ガズワニ大統領は、ニジェールのクーデターというサヘル地域での新たな危機に対する関与を深めるよう、近隣諸国の仲間達から何度も促されてきた。モーリタニアは１９９８年以来、西アフリカ諸国経済共同体（ＥＣＯＷＡＳ）に加盟していない。他方、８月９日、Ｇ５サヘルの現議長としてアブジャで開催されたＥＣＯＷＡＳ首脳会合に出席した。
（２）大統領府に近い情報筋は、「ガズワニ大統領は、ニジェールへの介入に賛成するサル・セネガル大統領から、ニジェール危機に対応する上で力を貸してほしいとの強い要請を受けた。更にガズワニ大統領は、サヘル地域で影響力を持つトゥアレグ系モーリタニア人で、バズム大統領の顧問を務める人物の訪問を受け、軍事介入を支持するよう説得された。他方、ガズワニ大統領の立場は変わらない。たとえガズワニ大統領がバズム大統領と友人であっても、モーリタニアは声明以上のレベルでバズム政権を支持しないだろう。」と述べている。
（３）８月１６日～１７日にかけて、ＥＣＯＷＡＳ関係国の軍参謀総長がガーナの首都のアクラに参集し、軍事介入の方法について協議したが、モーリタニア軍がＥＣＯＷＡＳと共に介入する可能性は議題に上がらなかった。

６．（１）モーリタニアは、ＥＣＯＷＡＳがニジェールに対して課した重い経済・金融制裁に同調するのも拒否している。マリ中央政府がＥＣＯＷＡＳにより経済・金融制裁を課された際と同様である。ＥＣＯＷＡＳがマリに対して制裁を課した際にモーリタニアは、ヌアクショット港がマリ中央政府の主要貿易ルートのひとつであるにもかかわらず、国境を閉鎖することを拒否した。
（２）ガズワニ大統領は、ニジェールのクーデター勢力との連帯を表明しているマリ中央政府から不興を買わないよう警戒している。大統領府に近い情報筋は、「モーリタニアはマリを敵に回したくない。」と述べている。また、ニジェールとの関係を更に悪化させるリスクも冒したくはない。

●西アフリカ移民問題（８月３０日付　各種報道）

１．８月２４日（木）以来、１６８名の移民を乗せたスペイン沿岸警備隊の巡視船が、モーリタニア・ヌアディブ港の対岸で足止めされている。船上の状況

が悪化するなか、マドリードとヌアクショットとのにらみ合いが続いている。モーリタニアは隣国セネガルから出発した亡命者たちの下船を拒否しており、スペインは彼らを自国に迎え入れるつもりはない。
２．巡視船Rio Tajo号には、灼熱の太陽から身を守るために即席の天蓋が用意されているが、トイレもシャワーもない。食事は、乗組員が移民に米を炊いている。２６日（土）には、暴動を鎮めようと乗組員が発砲した。亡命者の中には、生活環境に抗議するため、早朝からハンガーストライキを始めた者もいたが、反対意見が噴出し、一部の移民はとにかく食事をすることにした。スペイン警察筋によれば、（食事をした移民の）うち一人がストライキ参加者に襲われた。当該事件を受けて、スペイン当局は巡視船の警備を強化した。スペイン海事局から１６人の武装捜査官が駆けつけ、２０人の警備隊員を支援した。
３．２０１６年以来、モーリタニアは不正移民を抑制するためにスペインから年間１,０００万ユーロ以上の補助金を受け取っており、これには警察の訓練、装備の購入、燃料費などが含まれている。さらにヌアクショットは、スペインがモーリタニアに２隻の船舶、ヘリコプター、陸上パトロール隊を配備することを許可することで、亡命者が海に出るのを防ぐためにスペイン警備隊が自国の領土内で行動することを認めている。
４．モーリタニアは、ヨーロッパへ向かう亡命者を最も多く受け入れている国のひとつ。２０２３年、モーリタニア沿岸からカナリア諸島に到達できたボートはわずか５隻だった。スペイン内務省は、モーリタニアとの関係を損なうつもりはない。スペイン当局は、早急に解決策を見出すために「継続的な協議」が行われていると主張している。

【文化】

●外交アカデミーに図書寄贈（８月８日）

８月８日、内田大使はモーリタニア外交アカデミーの本部を訪問した。今回の訪問の目的は、政治、文化、その他の分野における１００冊本を贈呈し、現在同アカデミーが設立を進めている図書館を充実させるためである。今回の訪問を通じて、両国が様々な分野で協力を強化、発展させたいという意向が確認された。

●内田大使のがん患者慰問（８月１７日）

８月１７日、内田大使は国立がん研究センターにあるがん患者治療のＮＧＯがんセンターを訪問し、ヌアクショットのダール・ナイーム地区にある本部を視察した。今回の訪問では、関係者から、少なくともひとときは病気のことを忘れ楽しむことができたと感謝の意が表された。